

図表-1

		10 × 10 × 10 × 10 × 10 × 10					
商品		A	B	C	D	E	F
投入パターン		10通り	10通り	10通り	10通り	10通り	10通り
1		●	○	○	○	○	○
2		○	○	○	○	○	○
3		○	○	○	○	○	○
4		○	○	○	○	○	○
5		○	○	○	○	○	○
6		○	○	○	○	○	○
7		○	○	○	○	○	○
8		○	○	○	○	○	○
9		○	○	○	○	○	○
10		○	○	○	○	○	○

図表-2

マネジメント・システム	経営の根幹を成すシステムであり、戦略的な経営の構築とPlan-Do-Seeによる水準の維持、必要に応じたレベルアップを実現する。まさに企業におけるホメオスタシスとも言えるシステムである。
情報システム	情報システムの目的は3つである。1つ目はインターネットをベースとした高度かつ高速な情報の収集・伝達・活用による業務の高度化、効率化であり、従来の閉鎖系コンピュータ・システムとは本質的に異なる機能（通信をベースとした開放系ネットワークシステム）の活用である。2つ目はマネジメント・システムに対するサポート・システムとして各レベルにおける意思決定をサポートするものであり、概念ばかり先行して実現するためのインフラ整備が遅れているソフトメリットである。3つ目がオペレーションの合理化、効率化であり、コンピュータ・システムにおけるもっともベーシックなハードメリットとも言えるものである。
マーチャндаインング・システム	経営のベースになる商品に関する全てをカバーするシステムである。企業としての強さ、競争力の中で重要な位置を占める。
オペレーション・システム	実行レベルでの確実性、合理性を実現するためのシステムであり、上記の各システムの実現を左右するという意味ではとても重要なシステムである。
人材育成／キャリア・ディベロップメント／評価システム	人に関するシステムである。特に業務を通じたキャリア・ディベロップメントと適正な評価システムは人材育成の柱となるだけではなく、上記、全てのシステムに対して実現のレベル、精度を左右する重要なものである。